

「二学期をやりかえって」

荒中二年生としての二学期。

様々な行事を経験し、すべてに対応して感じたのは、「仲間の大きさ」と、「仲間との協力の大切さ」です。小学生の時にはできても、今では一番難しいものだ、と学習発表会のときに痛感しました。小学生のときにつれていた「協力」が中学生になってできない理由、それは、一人一人の意思がはつきりとしてきて、様々な感じ方・考え方の違いが起きるからだと思います。数人が全力で取り組もうと思つても、他の人が適当にしようとする、協力なんてできません。皆でつぶつあげれば、良い結果が得られるどわかつて、るのに、まとまらなかつたり、協力しようとななかつたり……しかし、学習発表会で学んだのは、「仲間」を変えられるのは「仲間」だということです。「仲間」というのは偉大な存在なんだ、と感じました。

体育大会。二年生は荒中伝統のソーランを踊りました。私は、ソーランリーダーになりました。自分一人で覚えて踊るのも大変でしたが、人に教えるのはもっと大変で、本番に間に合うのかな、と思うこともあります。最初は、種目の一つとして、ただただ踊つていただけでしたが、踊つていてるうちに、教っているうちに、今までの先輩方を越えて、感謝を伝えたい、荒中の伝統を受け継いで、次の学年にいいバスを渡したいという思いが出てきました。全員がしっかりとそれを意識して個人個人の目標としたとき、田に見えてソーランがまとまっていくのが分かりました。~~自分が何をするかは嬉しいが何よりも嬉しい~~。私だけでなくみんなが同じ思いを共有できた瞬間が、あの本番だったかもしません。ソーランを全力で踊つたからこそ、得られたものがとても多かったです。

私が特に実感したのは、「伝統の重さ」です。「伝統」という言葉は、安易に使えるものではありません。ずっと前の先輩から引き継がれてきた歴史があるからこそ、今の私たちがこの場で踊うことができるということです。その大切なものを引き継いで次につなげるというのは思つてはいるよりもずっと難しいことでした。本番間近に、全員で練習したとき、リーダーや私一人がどんなに全力で踊つても、それはただの自己満足ですかありませんでした。リーダーは常に謙虚に、いつでも全力で、視野を広く持つて、さまざまな思いを持つた個人個人とぶつかつていかなければなりません。入場の前から演技が始まり、いつの瞬間も一人ひとりが全力を表現できることこそ「懇意にやれやれソーラン」です。それに気が付いたとき、「人に伝える」とはどういうことか、どうしたら「伝えることができる」のか、やっと考え始め、表現していくことができたような気がします。

校外学習。一人では実現できないことも「仲間」と一緒に「不安」は半分、協力すれば發揮できる力は倍以上になります。その「協力の大切さ」を理解し、表現できた機会になったと思います。今年、私たちは奈良に行きました。活動は、班で計画を立て、行きたい場所を決めて、自転車で移動するという内容です。自転車を使うところとは事故になる可能性もあるし、地図を見ても、実際の道では迷うかもしれません、など多くの心配がありました。ですが、班で協力して時間通りに目的地にたどり着くことができ、学年全員が事故もなく終えることができました。安全第一を守り、さらに「時間」をそれぞれが意識して行動できたことが、とてもよかったです。

そして、様々な経験を通して学んだ、「学年委員」としての初めての役割。最初は、「私にできるのだろうか」と思つていただけど、友達に背中を押されて、立候補しました。本当に大変で難しい役だなあと思います。自分の頼りなさにも気づかされました。しかし、やる以上は頑張りたいです。これから私の長所を見つけて、それを生かし、もっともっと良いクラスを目指して、みんなと「協力」していくたいです。頼りがいのある人になり、学年で一番のクラスを目指にがんばります。難しいことかもしれません、が、ここで自分自身を成長させられるように、積極的にもっとクラスに関わる努力をしてきます。

学年集会でも何度も確認しましたが、三学期は「最高学年」へ向けての準備期間です。「荒中生」であることを「誇り」に思つて、今までの努力を信じ、「自信」に向けて頑張つてこましょ。